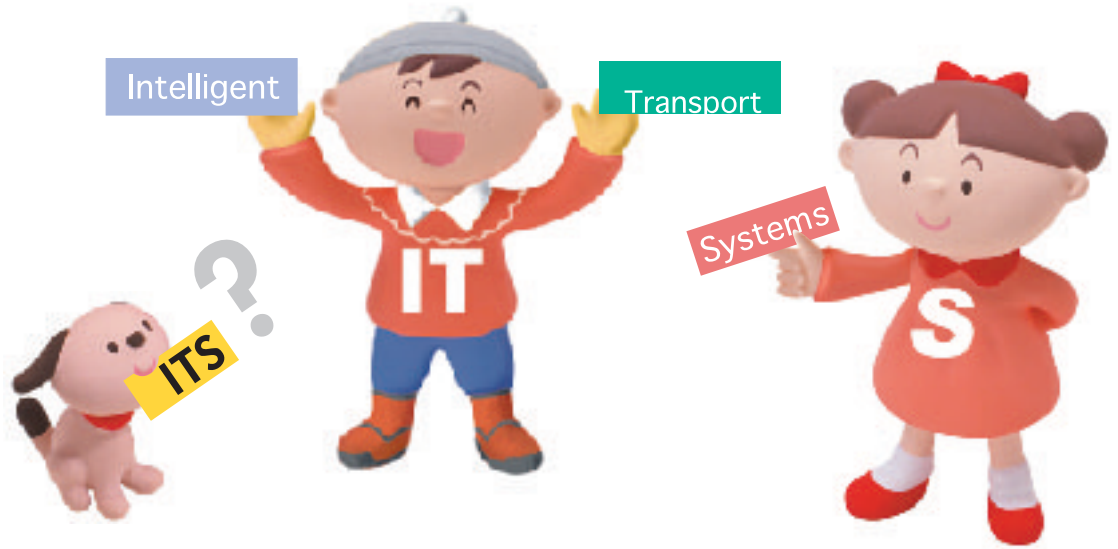


Q & A ITSってなあに？



ITS は、Intelligent Transport Systems の頭文字をとった言葉で、最先端の情報通信技術を使って、「人」と「クルマ」と「道路」をつなぐ、21世紀の社会システムのことなんだ。

ITSで道路はいろいろと快適に、便利になるんだよ。



ITS についての5つのクイズにチャレンジしてみよう。

(答えは18ページの下にあります)

- Q1. ITSとは、人とクルマと何をつなぐシステムでしょう？
ア．道路 イ．学校 ウ．冷蔵庫
- Q2. 札幌市の冬季道路交通情報システムで、マルチセンサとともに情報収集で活躍しているのはなんでしょう？
ア．インバーダー イ．気象レーダー ウ．仮面ライダー
- Q3. 交通事故を減らし、誰でも安心して運転することができるようにするITSのシステムはなんでしょう？
ア．PHS イ．AHS ウ．PTA
- Q4. 高速道路の料金所をノンストップで通ることができるシステムはなんでしょう？
ア．FAX イ．USA ウ．ETC
- Q5. 札幌市南区にある、北海道の道路のことがわかる場所はどこでしょう？
ア．道路情報館 イ．青少年科学館 ウ．さけ科学館

ITSの展開

ITSは、国土交通省、警察庁、経済産業省、総務省などの省庁と、産業界、大学などの研究機関が、いっしょに取り組み推進しています。

日本において最初に ITSの全体構想ができたのは平成8年7月でした。

この全体構想では、みんなが同じ目標に向かって ITSを進められるように9つの開発分野と、それに関わる 21 の利用者サービスを示しました。

ITSは国際的な協力のもとに進められており、毎年開催されている ITS世界会議では、各国が最新の研究成果を発表し、情報交換しています。

9つの開発分野

ナビゲーションシステムの高度化
自動料金収受システム
安全運転の支援
交通管理の最適化
道路管理の効率化
公共交通の支援
商用車の効率化
歩行者等の支援
緊急車両の運行支援

21の利用者サービス

- (1) 交通関連情報の提供
- (2) 目的地情報の提供
- (3) 自動料金収受
- (4) 走行環境情報の提供
- (5) 危険警告
- (6) 運転補助
- (7) 自動運転
- (8) 交通流の最適化
- (9) 交通事故時の交通規制情報の提供
- (10) 維持管理業務の効率化
- (11) 特殊車両等の管理
- (12) 通行規制情報の提供
- (13) 公共交通利用情報の提供
- (14) 公共交通の運行・運行管理支援
- (15) 商用車の運行管理支援
- (16) 商用車の連続自動運転
- (17) 経路案内
- (18) 危険防止
- (19) 緊急時自動通報
- (20) 緊急車両経路誘導・救援活動支援
- (21) 高度情報通信社会関連情報の利用

用語説明

VICS

Vehicle Information and Communication System = 道路交通情報通信システム

リアルタイムな渋滞情報、交通規制情報などをドライバーに提供するシステムです。

平成8年4月に関東地域でサービスが開始され、現在は全国各地でサービスが展開されています。

北海道では平成11年5月に札幌地区、平成12年12月に旭川地区、平成13年8月には函館地区でサービスが開始されています。

ETC

Electronic Toll Collection System = ノンストップ自動料金支払いシステム

愛称“イーテック”は有料道路の料金所でストップすることなく料金を自動的に支払える、とっても便利なシステムです。

平成9年3月、小田原厚木道路小田原料金所での試用運用から始まり、現在（平成13年12月）、全国616ヶ所の料金所で運用されています。

この内、北海道は19ヶ所の料金所で運用され、今後、さらに増えていく予定です。

AHS

Advanced Cruise - Assist Highway Systems = 走行支援道路システム

AHSとは道路と車の協調により、事故を未然に防ぐシステムです。

AHSは、i = 情報提供サービス、c = 操作支援サービス、a = 自動走行サービスの3つの支援段階に分類され、現在取り組んでいるシステムは、情報提供サービス（i）です。

北海道では、積雪寒冷地特有の交通障害に対応した、寒冷地AHSの開発に取り組んでいます。

PTPS

Public Transportation Priority System = 公共車両優先システム

PTPSとは、バスの位置をキャッチして、進行方向の信号機の青時間を延長させるなど調整して、バスを優先的に走行させるシステムです。

平成8年度に札幌市内の国道36号で運用が開始されて以来、長野オリンピックでも活躍し、現在は東京都、静岡県でも導入されています。